

【団体名】国立大学法人福井大学

- ・研究協力校等 I 校内研修支援 28校
II 研修コンシェルジュ94人
III デジタル技術活用支援 19校
- ・協力機関 福井県教育委員会(教育庁各課、教育総合研究所、
嶺南教育事務所、特別支援教育センター)

モデル開発概要

現場における課題

- ◆ 学校や教員が受動的になる伝達型研修が多くみられる。
- ◆ 校内研修に係る情報交換が学校間で、かつ学校種を超えて行われることが少ない。
- ◆ 指導主事や教職大学院教員が複数参加できるオンラインによる効果的な授業参観や研究会の汎用性のある方法の研究開発が進んでいない。

モデルの概要

- ◆ 校内研修カンファレンスを定期開催し、当事者意識を高め主体的になる研修の経験値を増やすことで、参加校の知識伝達型の研修からの転換を図る。
- ◆ 研修コンシェルジュによる校内研修の情報交換の促進
- ◆ デジタル技術活用支援による効果的な授業参観や研究会の汎用性のある方法の研究開発

活用する技術・ツール等

- コミュニケーションツールのchat機能
- 360度カメラ、対話録音ツール、メタバース

高度化に資する取組

I 校内研修支援

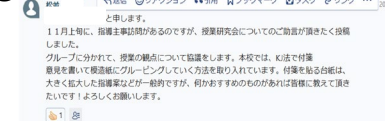
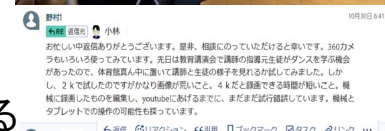
- 参加校の管理職や研究主任によるカンファレンスを3回実施
- 参加者の研修観が変わり、対話傾聴型等自校研修を当事者意識が高まる研修への転換を支援

II 研修コンシェルジュ

- 学校、教育委員会、大学等が参加し、研修に関する情報交換を進めることで校内研修の活性化を支援

III デジタル技術活用支援

- 参観や研究会の汎用性のある方法の研究開発
- 360°カメラの活用の仕方に加え録画データをエビデンスとなり研究会等の高度化を支援



モデルを活用する上でのポイントや期待される効果

- ◆ I 校内研修カンファレンス: 管理職等がファシリテーター経験を積むとグループセッション型研修への転換が容易に。
- ◆ II 研修コンシェルジュ: 場を放任せずに場をファシリテートする者が必要
- ◆ III デジタル技術活用支援: 学校のネットワーク環境整備等、行政による支援が必要。気軽なツールとなれば授業参観等から研究会まで、様々な高度化に資する可能性が広がる。